

おもいやり

令和7年
vol. 33

Column

アートインホスピタル vol.5

病院の中には美術品が沢山あります。寄贈されたものがほとんどで、患者さんや職員を和ませています。廊下は美術館のようです。是非とも作品も鑑賞していただきたいと思います。(担当/病院長 北井隆平)

タイトル くつろぎ 中尾知花子氏 2階中央エレベーター前通路



画面中央に柔らかにかげられた白い布に対照的な赤いストール。作者はある休日の午後、暖かな光の入る部屋で音楽の奏を聴きながら、ゆっくりと時を過ごす心象をキャンバスに留めたと解説してくれました。

視覚で楽しむ絵画と聴覚で楽しむ音楽どちらも人の心を豊かにするものですが、それに加え、絵中に熟した葡萄が味覚を思い出すように配置されています。人の欲望と満足をつの絵の中にぎゅっと押し込めてあります。贅沢な瞬間を切り取ったものかもしれません。そんなことを考えながら漫然と絵を眺めていましたら、とんでもない技法がちりばめられていることに気づきました。トランペットのホーンの中の反射でゆがんだ空間、磨き上げられた床に綺麗に反射したベルの影、油絵での古典的なグレース技法を超絶技巧で利用しながら、その3次元的な空間が破綻していません。何度も油絵の具をグラデーションをつけながら重ね塗りしたかと思うと、なんと根気と情熱のいる仕事だったのかと思います。古九谷焼の写実が現代油絵アートに引き継がれている、加賀美術の写実主義の完成形なのだという解説は私の考えすぎだろうか？(油絵 中尾知花子 2014年 現代美術展出品作品)

大盛況

そば処 近澤屋

令和6年12月27日(金)の仕事納めの日に、2階レストラン「マングリーヌ」で営業後の客席フロアをお借りして、総合診療科 近澤博夫医師による「そば処 近澤屋」が開店し、「年越しそば」のふるまいがありました。多くの職員が訪れ、1年を振り返りながら、和気あいあいと楽しいひと時を過ごしました。

「そば処 近澤屋」は、店主が国立山中病院に赴任されてから30年近く続く年末の伝統行事で、加賀市医療センターに合併されてからも毎年の恒例行事として続けていました。しかし、平成30年を最後にコロナ禍の影響を受け中止となり、昨年はコロナの流行が落ち着いて6年ぶりの開催となりました。当日は院長の発案で、能登半島地震の復興募金も集めました。

店主(近澤博夫医師)の思い

『もともとは、年末にスタッフと1年の労をねぎらいあう機会として「そば」の出前を取るところからスタートしました。だんだんとその輪が広がり、自分たちで「そば」を作るようになったのが始まりです。

1年間、共に日々の診療に携わったスタッフと仲間同士で和む機会として、日本の伝統である年越しそばを食べながら1年間を振り返って「ほっこり」し、来年からの活力にもらえる、そんな機会になったらいいなと思っています。これからもこの伝統を守っていきたいです。』(材料はスタッフ皆様からの持ち込みとお志で調達しております。)



スタッフからのメッセージ

- ・出汁がとておいしかったです。
- ・具材がたくさんあって、セルフトッピングで味変できるのがよかったです。
- ・忙しい勤務の中、ほっと一息つけるいい機会になりました。



目次 contents

- P1 ● 心臓リハビリテーションをご存じですか?
- P2 ● 「脊髄刺激療法」を始めました
● 加賀市女性協議会から
タオルを寄贈いただきました
- P3 ● 加賀看護学校通信
- P4 ● Column アートインホスピタル
● 大盛況 そば処 近澤屋

リハビリテーションセンターより

心臓リハビリテーションをご存じですか?



以前は「心臓の病気になったら、しばらくは絶対安静!」というイメージがありましたが、今は心臓の病気になっても、なるべく早くから適切なリハビリテーションを行う方が良いことがわかっています。むしろ、運動をすることが心臓病の治療に効果があります。

心臓病の患者さんに対して行われるリハビリテーションを、心臓リハビリテーション(通称、心リハ)と言います。心リハは、心不全や心筋梗塞、狭心症などの心臓病の患者さんが、元気になって無事に退院し、快適な日常生活や仕事に戻ることを目標におこなわれます。さらに、心臓病の再発や再入院を予防し、生命予後を改善する効果すらあります。加賀市医療センターでは、2024年春から心リハ施設基準を取得し、必要な患者さんに対し積極的に心リハを導入しています。

一般的な心リハの流れをご紹介します。心臓病を発症した翌日は、治療と並行して病室での心リハが開始されます。リハビリスタッフの見守りや介助のもと、座位・立位・歩行などの離床を、数日かけて慎重に進めていきます。病棟での歩行が可能になったらリハビリセンターでの運動へ移ります。リハビリセンターでは、準備体操にはじまり、有酸素運動(自転車こぎ、歩行など)、筋力トレーニングを行い、最後に整理体操を行います。運動中は、



▲自転車こぎ

血圧や脈拍、呼吸、心電図などに問題がないか、常にリハビリスタッフが確認しながら安全に進めていますので、ご安心ください。

運動をすることだけが心リハではありません。患者さんに病気に対する正しい知識を身につけていただき、生活習慣の見直しと改善を図っていただくことも心リハの重要な側面です。退院後に、心臓病を再発させないためには何をどう気をつけたらよいか、食事は何を食べたらよいか、薬の飲み忘れを減らすためにはどうすればよいか、自宅ではどのような運動をしたらよいか、などの知識を身につけて実践していただくことが重要です。そのために、専門知識を持った医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、リハビリスタッフなど多くの職員が、患者さん一人一人の状況に応じて、ご本人さま・ご家族さまへわかりやすく説明させていただきます。加賀市医療センターでは、退院後も、外来を通院していただきながら心リハを継続することができます。別の機会にご紹介させていただきたいと思っております。

基本理念

「おもいやり」

私たちは、市民とともに、市民中心の医療を提供し、市民の健康を守ります



基本方針

1. 信頼される最適な医療を提供します
1. 救急搬送はことわらず受け入れます
1. 将来を担う優れた医療人を育成します
1. 地域に根付いた医療を実践します

麻酔科
より

「脊髄刺激療法」を始めました (SCS:Spinal Cord Stimulation)

みなさん、こんにちは。加賀市医療センター麻酔科です。

当院はペインクリニック外来を行っています。ペインクリニックでは、主に「慢性痛」の治療を行っています。

慢性痛とは、疾患や外傷の治癒期間を過ぎて長引く痛みのことです。一般的には3～6ヶ月以上持続する痛みを慢性痛としています。慢性痛は疾患や外傷で生じた体の異常が持続して生じますが、次第に心理ストレスや社会問題の影響をうけるようになります。慢性痛を治療するときにはこれらの要因を究明し、患者さんひとりひとりにあわせて治療方針を決定する必要があります。

慢性痛の治療には「薬物療法」「神経ブロック」「低侵襲治療」「外科治療」「認知行動療法」「リハビリテーション」などがあります。当院では、主に薬物療法、神経ブロック、近赤外線療法による治療を行っていますが、今年度より脊髄刺激療法を始めました。脊髄刺激療法は有効かつ安全な治療法です。

痛み刺激が加わると、神経に痛みの信号が生じて脊髄を通り、脳に伝わって「痛い」と感じます。様々な原因で神経系が障害されると、人によっては異常な痛みの信号が神経系に現れ、刺激が無くても痛みを感じる状態、いわゆる「神経障害痛」が生じます。

脊髄刺激療法は神経障害痛に有効な治療法で、脊髄に微弱な電流を流すことで異常な痛みの信号を脳に伝わりにくくします。また、脳と脊髄には痛みを抑制する機能がありますが、脊髄刺激療法はこの抑制機能を活性化するので痛みが緩和されます。脊髄刺激療法は、脊髄の硬膜外腔に直径1.4mm程度の細くて柔らかい電極を挿入し、腹部に植え込んだ機器に接続して、脊髄に弱い電気刺激を加えて除痛を得ます。

脊髄刺激療法で除痛が期待できる代表的な痛みとしては、腰椎手術後症候群、腰部脊柱管狭窄症、複合性局所疼痛症候群、帯状疱疹後神経痛、末梢血流障害などがあります。慢性痛でお困りの方は、一度、当院の麻酔科ペインクリニック外来にご相談ください。

なお、安全で確実な痛み診断・治療のために、できるだけ現在かかられている医療機関で紹介状をいただいてからご来院ください。また、診察は予約制となっておりますので、事前のご予約をお願いいたします。



【脊髄刺激療法】



リモコン

電極

刺激装置

加賀市女性協議会からタオルを寄贈いただきました

加賀市女性協議会は「愛のタオル運動」として市内各地区の女性部がタオルの寄贈を募り、福祉、社会に役立てていただくよう支援をされています。

当院もたくさんのタオルを寄贈いただきました。皆様方からの愛を受け病院も支えられております。

この活動にご参加いただいた全ての方に感謝し、医療現場で活用させていただいております。ありがとうございました。



加賀看護学校通信

災害対応訓練で患者役を体験しました

加賀看護学校の1年生です。加賀市医療センターで行われた災害訓練に患者役として参加しました。とても緊張しましたが、医療従事者のみなさんの優しい対応に安心して参加することができました。

訓練ではさまざまな職種の人たちが連携して対応に当たっており、看護師さんたちの素早い行動や的確な判断に感動しました。私たちもこのような看護師になれるように、今まで以上に勉強を頑張っていきます！



誓詞式



本格的な実習が始まる前の12月に、2年生35名はナイチンゲールの灯火を受け継ぎ、看護師を目指す決意を新たにしました。

「患者さんの立場になって考え、患者さんの想いに寄り添える看護師になります」「日頃の会話を大切に、一人ひとりの患者さんにしっかりと向き合い、笑顔を忘れない親しみのある看護師を目指します」などと、一人ひとりろうそくを手に誓いを述べました。

誓詞式では加賀市医療センターの看護副部長さんから祝辞をいただき、より一層看護の尊さと医療に携わる一員としての責任を自覚しました。2月から加賀市医療センターなどで病院実習が始まります。日々知識や技術を磨き、誓詞式での誓いを胸に実習に臨みます。



看護師をめざしませんか？



4月入学の看護学生の入学試験を適宜行っています。入学生には社会人経験の方も増えています。(在籍の2割は社会人経験者、リスキリングです。)3年後に看護師国家試験受験資格が得られます。

入試情報については当校ホームページまで。

Instagram 始めました!

加賀看護学校の魅力をもっとお伝えるためにInstagramを始めました。みなさまフォローをお願いいたします!



KAGAKANGO